

農産物の残留農薬検査結果（令和5年7月～8月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和5年7月～8月に医療局食品専門監視班が収去した冷凍食品及び市内産農産物の検査結果を報告します。

冷凍食品については、7月にブロッコリー及びほうれんそう各2検体、アスパラガス1検体の計5検体、市内産農産物については、8月に日本なし8検体、なす2検体の計10検体、合計で15検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。日本なし8検体及びほうれんそう1検体から延べ39項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 冷凍食品及び市内産農産物の残留農薬検査結果 (令和5年7月～8月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
冷凍食品					
アスパラガス	1	0			
ブロッコリー	2	0			
ほうれんそう	2	1	アセタミプリド	0.16	3
			アゾキシストロビン	0.20	30
			クロチアニジン	0.04	40
			チアメトキサム	0.07	10
市内産農産物					
なす	2	0			
日本なし	8	8	ジノテフラン	0.02	1
			チアメトキサム	0.04	1
			フェンプロパトリン	0.06	2
			ペルメトリン	0.08	2
			ボスカリド	0.01	3
			クレソキシムメチル	0.13	5
			ジノテフラン	0.06	1
			ヘキサコナゾール	0.02	0.3
			ボスカリド	0.09	3
			クレソキシムメチル	0.21	5
			ブプロフェジン	0.04	6
			アセタミプリド	0.02	2
			クレソキシムメチル	0.28	5
			クロルフェナピル	0.01	1
			ジノテフラン	0.06	1
			ヘキサコナゾール	0.03	0.3
			アセタミプリド	0.03	2
			クロチアニジン	0.01	1
			ジノテフラン	0.02	1
			チアメトキサム	0.04	1
			フェンプロパトリン	0.10	2
			ボスカリド	0.08	3
			ジノテフラン	0.08	1
			フェンプロパトリン	0.12	2
			ボスカリド	0.05	3

表1(続き) 市内産農産物及び冷凍食品の残留農薬検査結果

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
日本なし			クレソキシムメチル	0.11	5
			クロルフェナピル	0.02	1
			ジノテフラン	0.05	1
			チアメトキサム	0.01	1
			フェンプロパトリン	0.17	2
			アセタミプリド	0.01	2
			クレソキシムメチル	0.20	5
			クロルフェナピル	0.13	1
			チアメトキサム	0.04	1
			ボスカリド	0.13	3

注) 中括弧 () はそれぞれ同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物		
		A	B	C			A	B	C
BHC (α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○	—	○	シハロトリン	0.01	○	○	○
DDT (DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	シフルトリン	0.01	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	シプロコナゾール	0.01	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	シペルメトリン	0.01	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	ジメトエート	0.01	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	シラフルオフエン	0.01	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	ダイアジノン	0.01	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	ダイムロン	0.01	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	チアクロプリド	0.01	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	チアメトキサム	0.01	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	テトラコナゾール	0.01	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	テブコナゾール	0.01	○	○	○
エンドスルファン (α 及び β の和)	0.005	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	テブフェンピラド	0.01	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	トリフルラリン	0.01	○	—	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	トルフェンピラド	0.01	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	ノバルロン	0.01	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	ピリダベン	0.01	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○

表2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物		
		A	B	C			A	B	C
フィプロニル	0.002	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○
フェントロチオン	0.01	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○
フェンクロロホス	0.01	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○
フェンバレレート	0.01	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○
フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○
フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○
フサライド	0.01	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○
ブプロフェジン	0.01	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○
フルジオキシニル	0.01	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○
フルシトリネート	0.01	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○
フルトラニル	0.01	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○
フルバリネート	0.01	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○
フルリドン	0.01	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○
プロシミドン	0.01	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○
プロチオホス	0.01	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	○	○	○
プロバホス	0.01	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○

農産物の種類 A:ブロッコリー、ほうれんそう B:アスパラガス、なす C:日本なし

○:実施、—:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

今回は、複数の農産物から検出された農薬を紹介します。

クレソキシムメチル

ストロビルリン系殺菌剤で、幅広い抗菌活性があり、特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して有効です。小麦、野菜類、果樹などに用いられます。

ジノテフラン

ネオニコチノイド系の殺虫剤で、吸汁加害するカメムシ目害虫などに効果を示します。薬剤抵抗性が問題化しているイネドロオイムシや土壌害虫であるキスジノミハムシなどに優れた効果があります。

チアメトキサム

ネオニコチノイド系の殺虫剤で、野菜、果樹、芝のアブラムシ類、カメムシ類、コガネムシ類などの幅広い害虫種に効果があります。効果の発現が早く、長い残効性も認められます。

ボスカリド

ピリジンカルボキサミド骨格をもつ殺菌剤です。灰色かび病、菌核病に効果があり、従来の殺菌剤に耐性を示す病害に対しても有効です。

※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2021年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】